

## 覚悟

中3の暑い夏が終わりました。毎年数々のドラマを見せてくれる彼ら。今年も皆頑張っているのですが、春からこの夏までに特に目についた二人のエピソードを紹介させていただきます。

まず一人目は、社会の勉強方法を変えた子です。この子は社会が苦手でした。2年の3学期まで通知表評定も普通の「3」。勉強をやらないわけではないけれど、何をどこまでやりこめばいいのか自分でもはっきりわからないまま中2が終わりました。そしていよいよ中3。第一回テストに向けて一念発起したこの子は、考えたあげく、「よし、テスト範囲の教科書を全部覚えよう。」と決めました。普通思い立てるものではありません。ものすごくしんどいのがわかっていますから。でも決めたのです。誰に言われたわけでもなく自分で決めたそのことを、この子はやりきりました。何日もかけて。結果は、90点台が学年で3人しかいないという難しいテストだったにもかかわらず、この子はその3人の中に見事に入ったのです。初めてでした。もちろん第二回テストでも「よし、やるか。」と自分でスイッチを入れてやり始め、やりきり、良い結果を残しました。通知表評定も2段階アップの「5」をいただくことができました。

もう一人はこの夏に自分の勉強時間を決めた子です。この子には大学受験に向かう高3のお兄さんがいます。この夏、お兄さんが猛勉強をするということで、それなら同じ受験生として自分も頑張ろうと、「1日10時間勉強する。」と決めました。そして、その言葉通り夏の間きっちりやりきってみせました。これも実際には簡単にできるものではありません。結果は当然ですがかなりの実力アップ。これからの受験に向けての体力、学力両面での土台が培われました。

この二人に共通していることは、苦しいことが分かっている中にあえて飛び込むという決断を自分で下し、やりきったという点です。これが誰かに強制されたものならば苦しいながらも人は形だけはやれるものです（内容はまた別ですが）。逆だと思われるかも知れませんが、そういうものだと私は思います。人は自分に対して甘いものです。自分自信との約束を守らなくても誰にとがめられることもありません。“そんな計画は無理だろう”と初めから敬遠し、よしんばやろうと決めたとしてもその後“今日は少し体調が悪いから”“今日は他にやることがあるから”など、やらない言い訳はいくらでも作れます。この二人がなぜやりきれたのか、そこには“よし、苦しいけどやるか”という腹を決めた「覚悟」があったからこそだと思われます。

内申アップ、学力アップという結果以上に、“自分で決めてやりとげた”という体験は大きな自信となって、これから先の彼らの人生を支えてくれるにちがいありません。